平成 29 年度 教員免許状更新講習　シラバス

講習番号	３	講習名	【選択】国語科教育に活かす古典文学研究の成果（１）				
担当講師		開催地	時間数	主な受講対象者	受講人数	講習形式	試験方法
柳川　順子		広島 キャンパス	６時間	中学校・ 高等学校国語科教諭	３０人	講義	筆記
開催日		７月２９日（土）		予備日	８月　５日（土）		

【到達目標】

中国古典について、その根幹を体系的に把握した上で、日本文学との関係性を理解している。

【講習の概要】

伝統的な言語文化の理解に重点を置く学習指導要領の特色を踏まえ、「日本における古典知の形成と展開」について考える。最新の研究成果を紹介しながら、『文選』『白氏文集』『唐詩選』などから、日本の古典知に組み入れられ、現代の「国語」のテキストにも多く採用されている作品を選んで味読する。あわせて、中国古典の全体像を俯瞰し、それとの対比を通して、日本文学の独自性についても考察を試みる。

【講習の内容】

講義 1：平安朝における中国古典文学の摂取（１）

平安朝の人々に愛された『白氏文集』は、その渡来当初、「もんじゅう」ではなく「ぶんしゅう」と読まれていた。この事例から窺える、日本の外来文化受容の特徴をまず概観する。次いで、『和漢朗詠集』の部立て「三月尽」を例に、白居易の作品が契機となって開花した、日本の新しい美意識に注目する。

講義 2：平安朝における中国古典文学の摂取（２）

『古今和歌集』真名序と、それが踏まえている『文選』所収「毛詩序」とを比較対照させて読み、日本文学と中国文学との質的差異について考察する。次いで、『古今集』的歌風が生まれた理由を、平安朝前期に盛行した漢詩文と、その作風に深い影響を与えた、『文選』に代表される中国六朝時代の文学との関係という視点から明らかにする。

講義 3：中国古典文学の根幹にあるもの（１）

漢文の教科書にも多く採られている白居易の「八月十五日夜、禁中独直、対月憶元九」と、この詩に関わる元稹の詩とを精読し、二人の置かれた情況や心理を分析する。その背景にある唐代官僚社会や、彼らの思想に影響を及ぼした科挙制度について概観しながら、日本文学と中国文学との質的差異について再び考察する。

講義 4：中国古典文学の根幹にあるもの（２）

詩聖と仰がれる杜甫ではあるが、その生前は苦難の連続で、ほとんど無名であった彼の詩は、同時代の平安朝には移入されず、後に『唐詩選』等に採録されて、日本の人々にも広く愛好されるようになった。唐代の知識人なら誰もが志した官僚としての活躍を、強く望みながらも実現できなかった彼の詩を精読しながら、中国的知性の精粋に触れる。

【備考】

試験の際には，講義で配付した資料，ノート，電子辞書を含む辞書の持ち込みを認めます。